



～「発達障がい」について②～

インクルーシブ教育だより4号では、「発達障がい」の概要について触れました。みなさんの周りにはじっとしていることができない子、いつも1人で遊んでいる子など、「気になる子」はいませんか。子どもの「気になる」行動は様々です。また、子どもの「気になる」行動の理由も様々です。じっとしていることができない子は、気分が高まって興奮しているだけかもしれません。部屋の外の様子が気になっているのかも知れません。単に1人で遊ぶことが好き、仲間に入れてもらう方法が分からないから1人で遊んでいるのかも知れません。一人一人の理由や背景に寄り添って、適切に支援していくことが必要であり、支援を通して子どもの成長を促す視点が大切です。

支援のポイント

①その子に合った支援をしよう！

- ・ 行動の理由を考え支援の内容や結果を記録・共有する。
- ・ 「少しずつ」前進できる支援方法で、成功体験を重ねる。



②分かりやすく伝えよう！

- ・ 絵を用いて、視覚的に伝える。
- ・ 分かりやすい言葉で伝える。

「ちゃんと座っていてね」ではなく、
「時計の長い針が6のところにくるまで座っていてね。」



③ルールを伝え、適切な行動を促そう！

- ・ 「○○しよう」と、行動をルール化する。
- ・ ルールがある意味を伝える。



④達成感を持つことができるように！

- ・ タイムリーに行動を具体的に褒める。
- ・ お手本を見せ、真似て体験してもらう。



行動を実況中継（ズボン持ったね、足入れられたね）
褒める基準を25%程度に（片方入れられたらOK）

⑤「遊び」を上手に取り入れよう！

- ・ 多様な体験ができる遊び（絵本、ふれあい、手遊び、運動等）を取り入れる。
- ・ 発達の様子にあった遊び（指さし、目合わせ、まねっこ等）を取り入れる。



⑥信頼関係を大切にしよう！

- ・ 楽しい時間を共有し、成功体験を積むことができるようにする。
- ・ 指示に従う必要性を伝え、子どもとの約束は必ず守る。



他の表現方法を知らないのかも



理由・背景

叩く、大声をあげたことで言うことを聞いてくれた経験があるのかも？

子どもの行動（例）

思い通りにならないとたたいたり
大声をあげたりする



「嫌な気持ちになったら私に伝えてね」等、他の対応方法を一緒に考える。

考えられる支援方法

「○○と思っているんだね」等、気持ちを代弁する。

